

広島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の令和4年度における目標達成状況等について

1 計画の概要

(1) 策定・改定年月

平成27年3月策定、令和3年3月改定

(2) 計画の概要

国の法律・計画や広島県の「広島県廃棄物処理計画」、本市の「広島市総合計画」、「広島市環境基本計画」等との整合を図り、長期的・総合的な視点のもと、「ゼロエミッションシティ広島の実現」を基本理念として、本市における一般廃棄物処理を計画的に推進するための方針を示している。

また、「食品ロスの削減の推進に関する法律」第13条に基づき、本計画の中に食品ロス削減推進計画を位置付け、市民・事業者・行政の協働による取組を一層推進することとしている。

(3) 基本理念・基本方針

【基本理念】：『ゼロエミッションシティ広島の実現』

本計画に掲げる施策を市民・事業者・行政が一体となって更に推進し、資源が循環して天然資源の消費が抑制され、環境への負荷が低減される美しく魅力あふれる都市、ゼロエミッションシティ広島の実現に向けた挑戦を続けていきます。

——【基本方針1】：市民・事業者・行政が一体となったごみの減量とリサイクルの推進

——【基本方針2】：安定的なごみ処理体制の確保

——【基本方針3】：分別区分・収集運搬体制の再構築

——【基本方針4】：コストの削減

——【基本方針5】：ごみのないきれいなまちづくりの推進

(4) 計画期間

平成27年度～令和6年度（前期：平成27年度～令和元年度、後期：令和2年度～令和6年度）

年度	H16～H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
目標年度	前計画		本計画 [平成27年度～令和6年度]									
計画期間	前計画の目標・施策を踏襲											
							年度 中間目標	計画 改定				年度 最終目標

(5) 減量目標

区分	目標	基準年度	中間目標年度	最終目標年度
		平成25年	令和元年度	令和6年度
排出量	最終目標年度（令和6年度）までに ごみ総排出量を 337,000t/年（約1割削減）に 1人1日当たりのごみ排出量を 785g/人日（74g削減）に	37.2万t (859g/ 人日)	目標値 35.9万t (826g/人日)	33.7万t (785g/人日)
			実績値 37.3万t (853g/人日)	
焼却量	最終目標年度（令和6年度）までに 焼却量を285,000t/年に	30.4万t	目標値 29.8万t	28.5万t
			実績値 30.4万t	
埋立量	最終目標年度（令和6年度）までに 埋立量を40,000t/年（約3割削減）に	5.6万t	目標値 4.9万t	4.0万t
			実績値 6.1万t	

(6) 進行管理

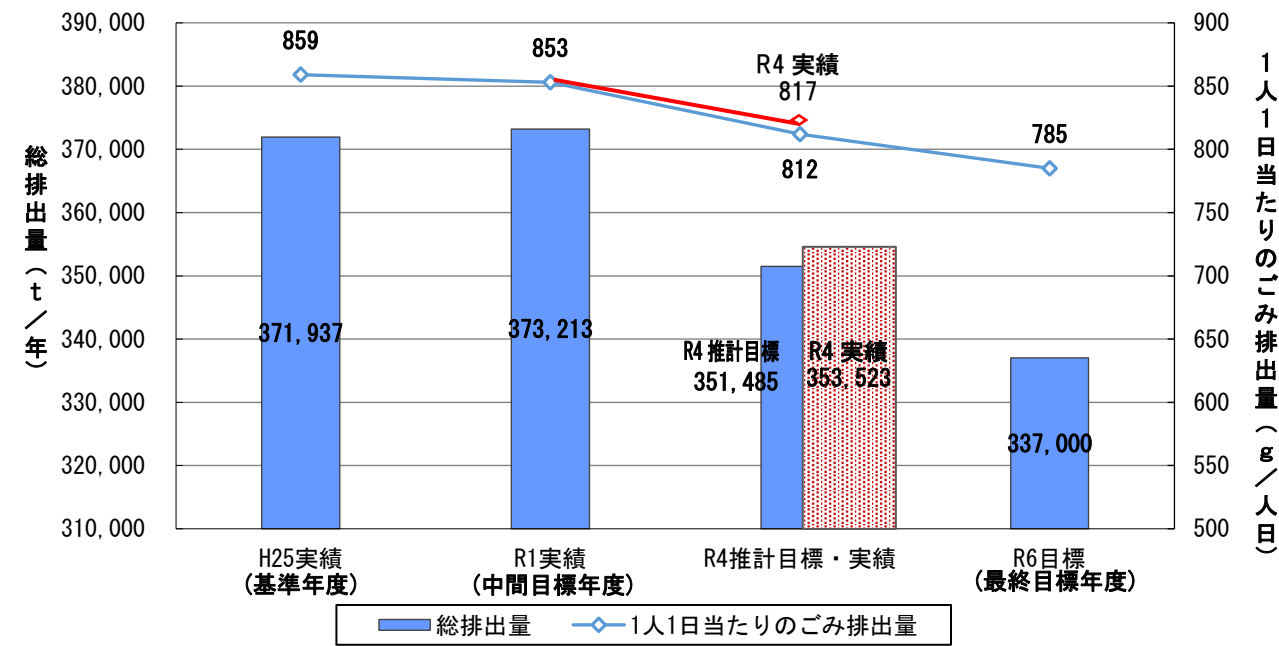
計画を着実に推進するため、施策の実施状況及び目標の達成状況を毎年度把握し、PDCAサイクル（計画（Plan）・実行（Do）・点検（Check）・見直し（Action））に基づき、計画の適切な進行管理を行うとともに、施策の実施状況や効果等を評価し、ごみ排出量等の推移や社会情勢の変化などを踏まえた上で、新たな施策の導入についても検討する。

2 減量目標の達成状況

項目	平成25年度実績 (基準年度)	令和4年度実績 (A)	令和4年度推計目標値 (B)	令和6年度目標値 (最終年度)	目標達成率 [1-(A-B)/B] ×100
1年当たりのごみ総排出量 (t)	371,937	353,523	351,485	337,000	99.4%
家庭ごみ (t)	214,681	215,225	206,619	-	95.8%
事業ごみ (t)	155,424	137,021	143,435	-	104.5%
都市美化ごみ (t)	1,832	1,277	1,431	-	110.8%
1人1日当たりのごみ排出量 (g/人日)	859	817	812	785	99.4%
1年当たりのごみ焼却量 (t)	303,687	291,053	292,441	285,000	100.5%
1年当たりのごみ埋立量 (t)	55,859	45,297	42,543	40,000	93.5%

※ 計画の目標値は、令和元年度（中間目標年度）及び令和6年度（最終目標年度）で設定しており、年度ごとに設定していないが、便宜的に各年度に割り振って推計値を算出している。

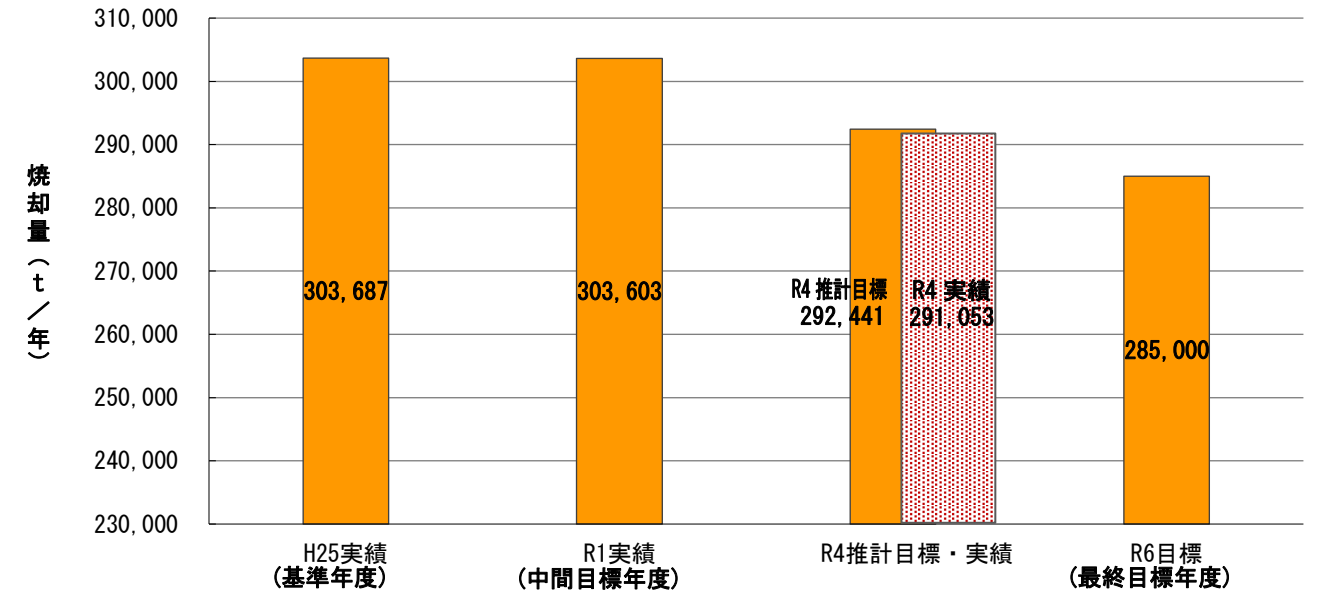
○ 排出量



【達成状況】

- 令和4年度のごみ排出量は353,523 tと、令和4年度の推計目標値351,485 tより2,038 t多く、目標達成率は99.4%
- 令和4年度の1人1日当たりのごみ排出量は817 gと、令和4年度の推計目標値812 gより5 g多く、目標達成率は99.4%

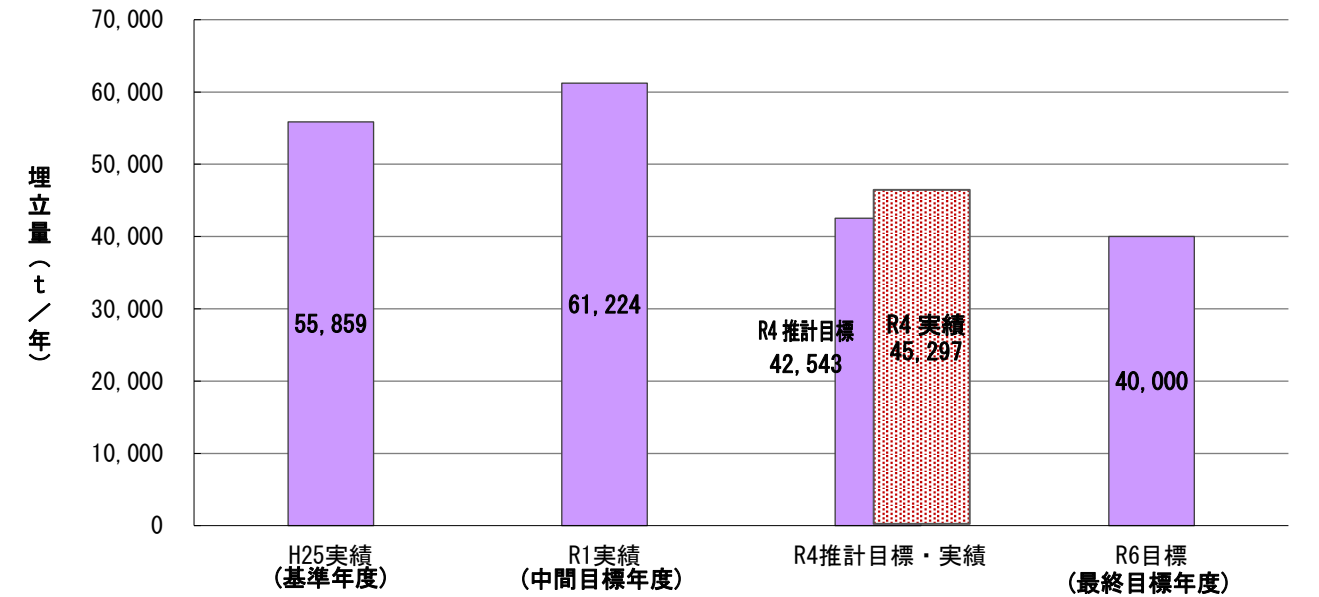
○ 焼却量



【達成状況】

- 令和4年度の焼却量は291,053 tと、令和4年度の推計目標値292,441 tより1,388 t少なく、目標達成率は100.5%

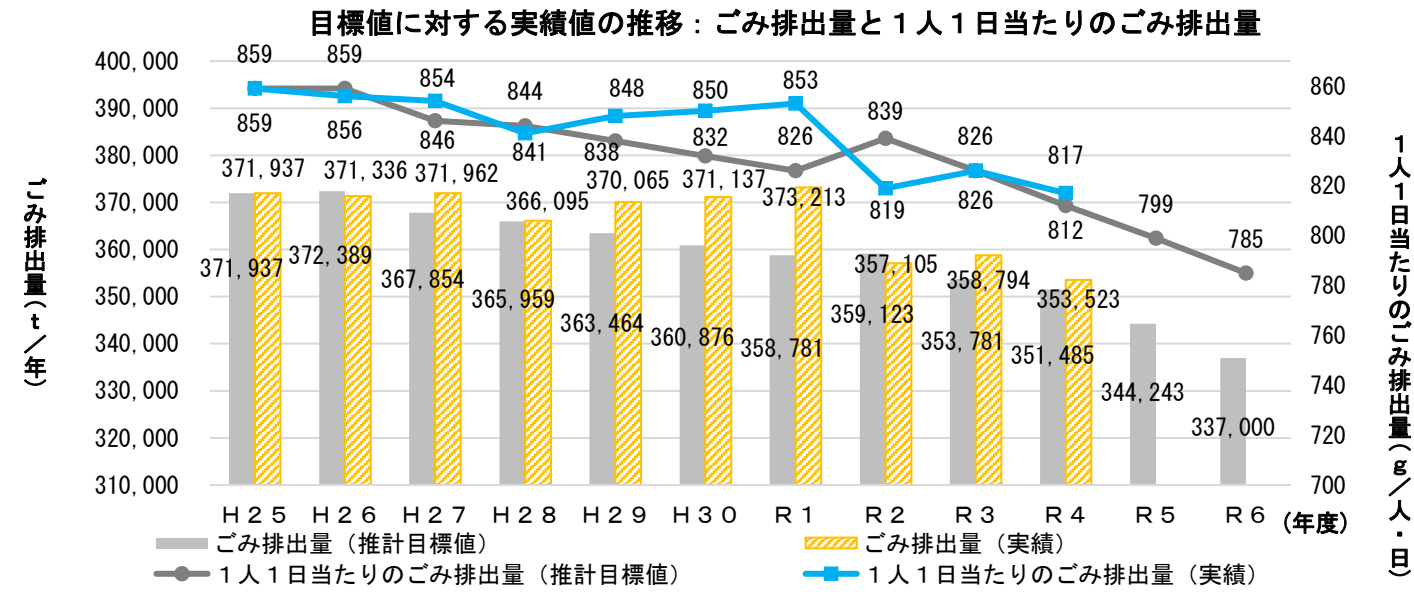
○ 埋立量



【達成状況】

- 令和4年度の埋立量は45,297 tと、令和4年度の推計目標値42,543 tより2,754 t多く、目標達成率は93.5%

3 排出量の状況



○ 増減等の主な状況

① 総排出量

- 令和3年度は増加したが、令和4年度は減少した。

② 家庭ごみ排出量

- 基準年度の平成25年度から平成28年度までは年々減少していたが、平成29年度から令和3年度は増加傾向にあった。令和4年度は令和3年度に比べ減少している。

<減少>

- 可燃ごみは、減少傾向にあり、令和4年度は133,721tと、基準年度である平成25年度の146,775tと比べると13,054t少なく、8.9%減となった。
- その他、資源ごみと有害ごみを除くごみ区分については、減少した。

<増加>

- 資源ごみは、平成26年度を除き年々増加しており、令和4年度は39,709tと、基準年度である平成25年度の28,573tと比べると、11,136t多く、39.0%増となった。

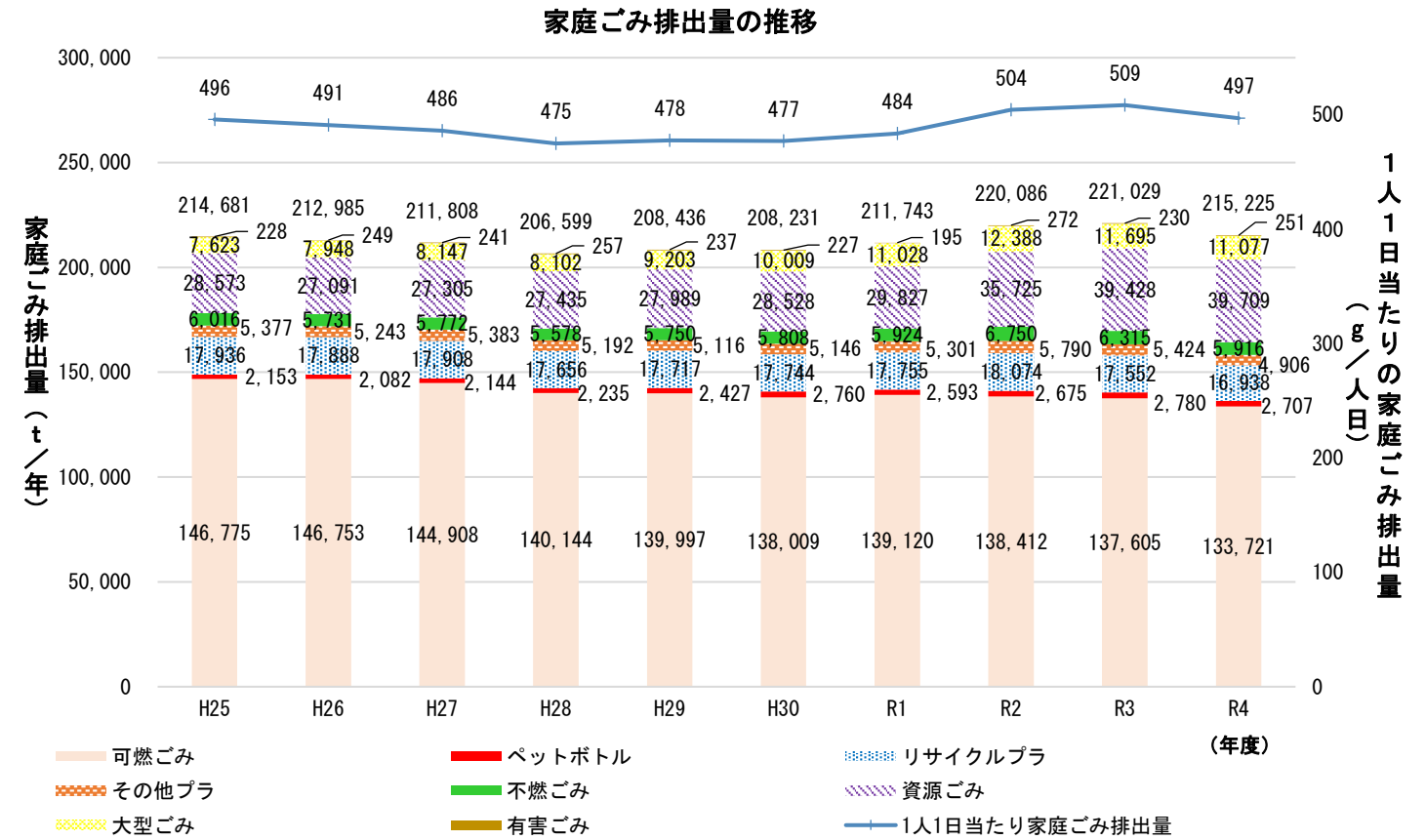
③ 事業ごみ排出量

- 基準年度の平成25年度以降、平成28年度を除き平成30年度まで年々増加していたが、令和元年度に減少に転じ、令和2年度は大幅に減少した。令和3年度、令和4年度は前年度と比較すると微増となっている。

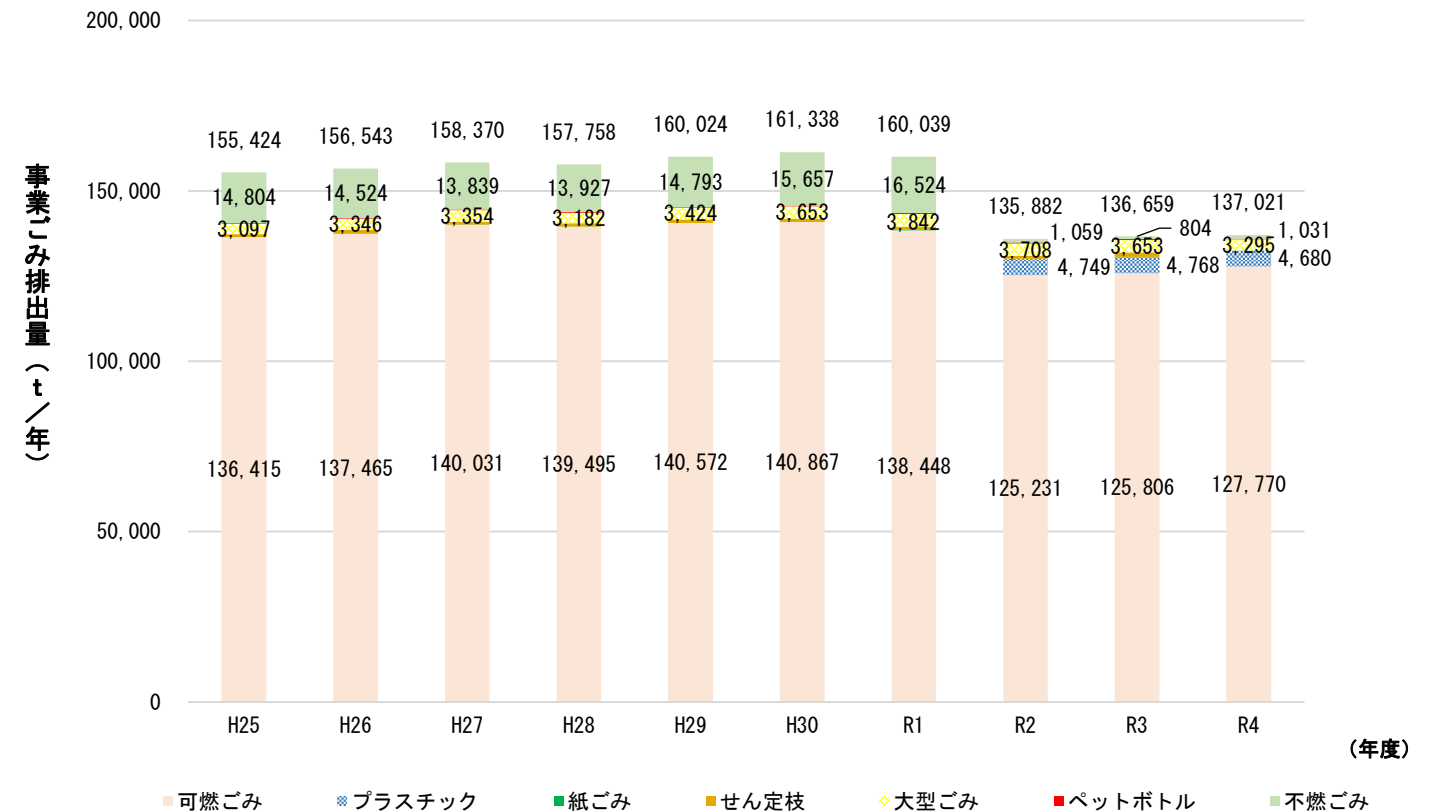
○ 増減等の要因

- 家庭ごみ：新型コロナウイルス感染症の影響及び資源ごみの持ち去り行為禁止
 - 令和4年度は令和3年度に引き続き、自宅の整理整頓を行う人やネットショッピングを利用する人、在宅勤務の人の増加など、生活様式や働き方が変化したことや、廃棄物の処理及び清掃に関する条例を改正し、令和3年10月1日から資源ごみの持ち去り行為を禁止したことにより、資源ごみの排出量が増加したと考えられる。
 - また、資源ごみが増加しているが、可燃ごみが減少していることから、リサイクルに対する市民意識が向上し、適切な分別が進んだと考えられる。
- 事業ごみ：新型コロナウイルス感染症の影響
 - 令和4年度は、令和3年度よりも新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなり、事業活動が再開し始めたことから、排出量が微増したと考えられる。

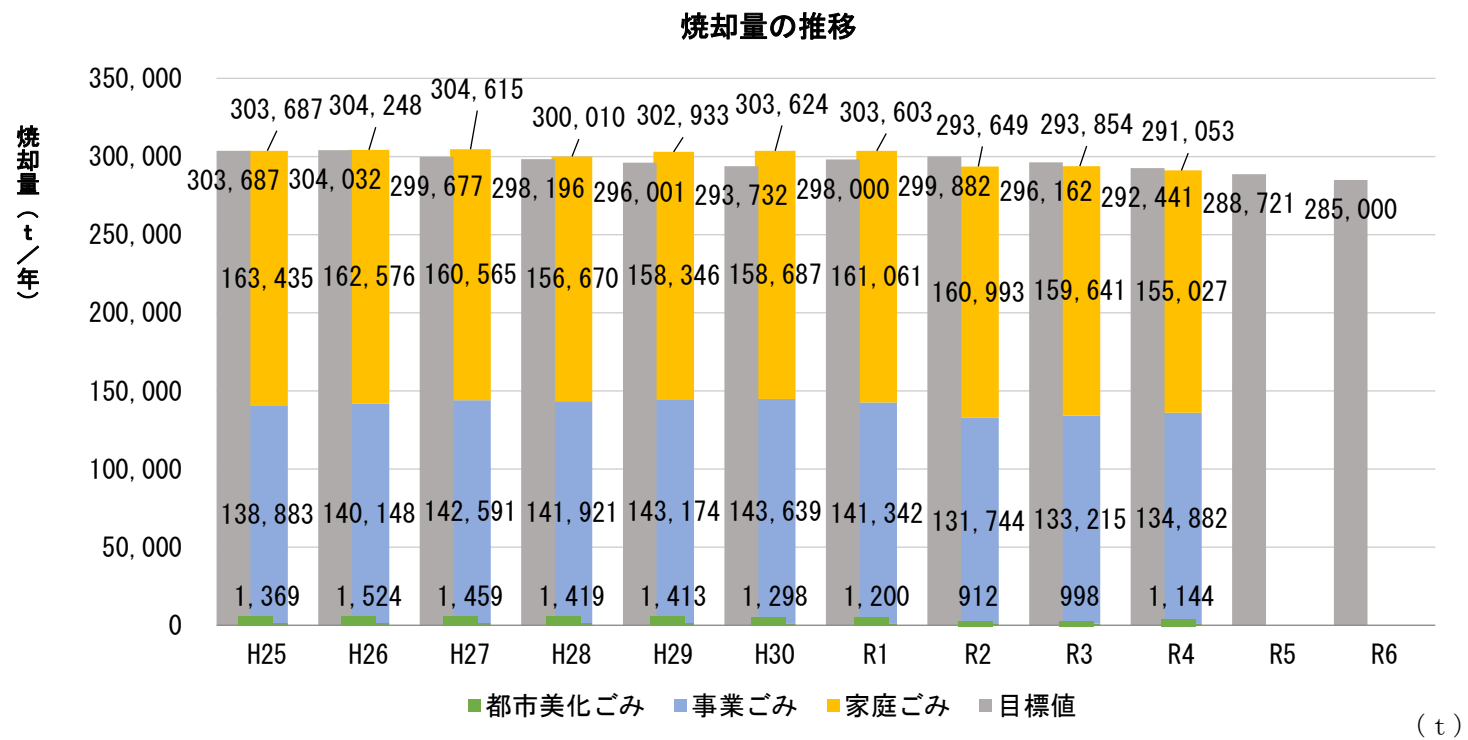
○ ごみ種類別排出量の推移



事業ごみ排出量の推移



4 焼却量の状況



区分	H25実績 (基準年度)	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	増減
家庭ごみ	163,435	162,576	160,565	156,670	158,346	158,687	161,061	160,993	159,641	155,027	↓
事業ごみ	138,883	140,148	142,591	141,921	143,174	143,639	141,342	131,744	133,215	134,882	↓
都市美化ごみ	1,369	1,524	1,459	1,419	1,413	1,298	1,200	912	998	1,144	↓
計	303,687	304,248	304,615	300,010	302,933	303,624	303,603	293,649	293,854	291,053	↓

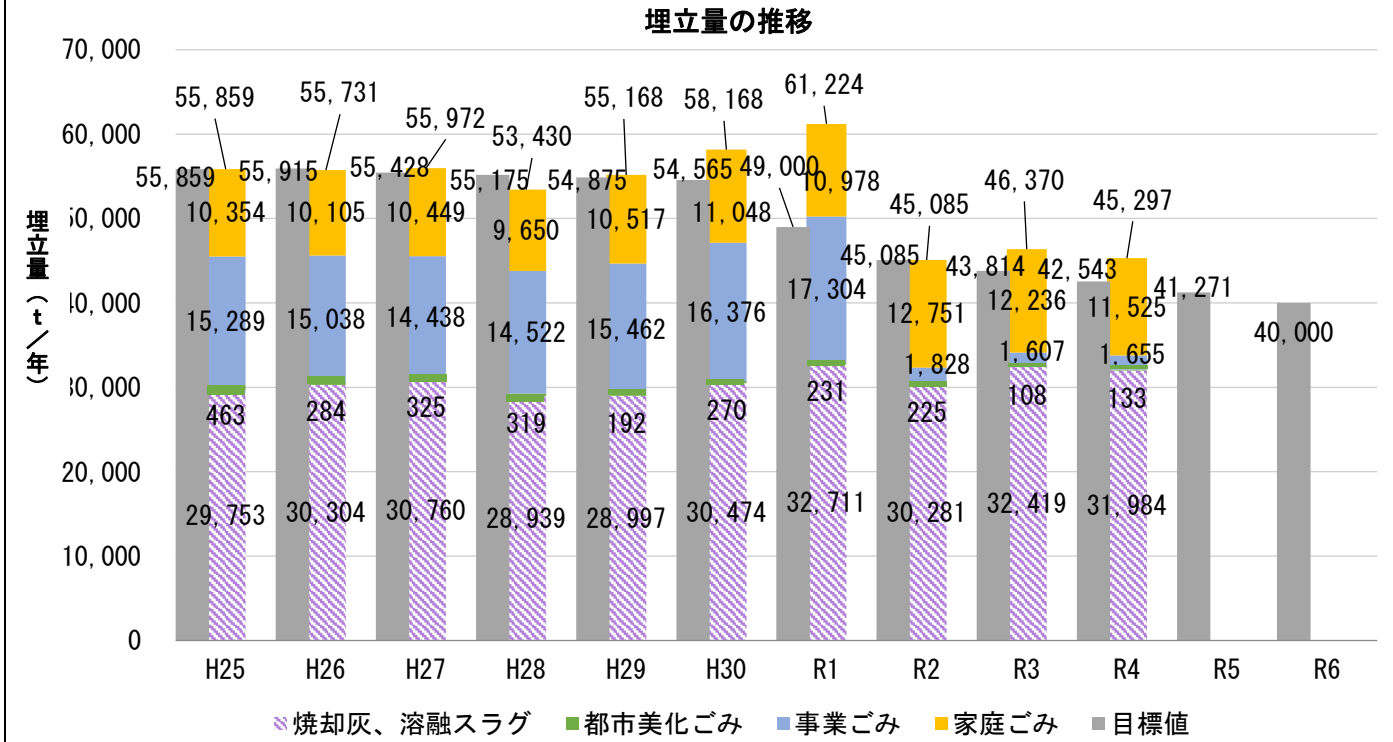
○ 増減等の主な状況

- 令和4年度の焼却量は291,053tと、基準年度である平成25年度の303,687tと比べて12,634t減少した。
- 令和4年度の家庭ごみ焼却量は155,027tと、基準年度である平成25年度の163,435tと比べて8,408t減少した。
- 令和4年度の事業ごみ焼却量は134,882tと、基準年度である平成25年度の138,883tと比べて4,001t減少した。

○ 増減の主な要因

- 家庭ごみ：ごみ減量・リサイクルの推進に向けた各施策の成果により家庭系可燃ごみの排出量が減少したことが要因と考えられる。
- 事業ごみ：新型コロナウイルス感染症拡大により事業系可燃ごみの排出量が減少したことが要因と考えられる。

5 埋立量の状況



区分	H25実績 (基準年度)	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30実績	R1実績	R2実績	R3実績	R4実績	増減
家庭ごみ	10,354	10,105	10,449	9,650	10,517	11,048	10,978	12,751	12,236	11,525	↑
事業ごみ	15,289	15,038	14,438	14,522	15,462	16,376	17,304	1,828	1,607	1,655	↓
都市美化ごみ	463	284	325	319	192	270	231	225	108	133	↓
焼却灰等	29,753	30,304	30,760	28,939	28,997	30,474	32,711	30,281	32,419	31,984	↑
計	55,859	55,731	55,972	53,430	55,168	58,168	61,224	45,085	46,370	45,297	↓

○ 増減等の主な状況

- 令和4年度の埋立量は45,297tと、基準年度である平成25年度の55,859tと比べて10,562t減少した。
- 令和4年度の家庭ごみ埋立量は11,525tと、基準年度である平成25年度の10,354tと比べて1,171t増加した。
- 令和4年度の事業ごみ埋立量は1,655tと、基準年度である平成25年度の15,289tと比べて13,634t減少した。

○ 増減の主な要因

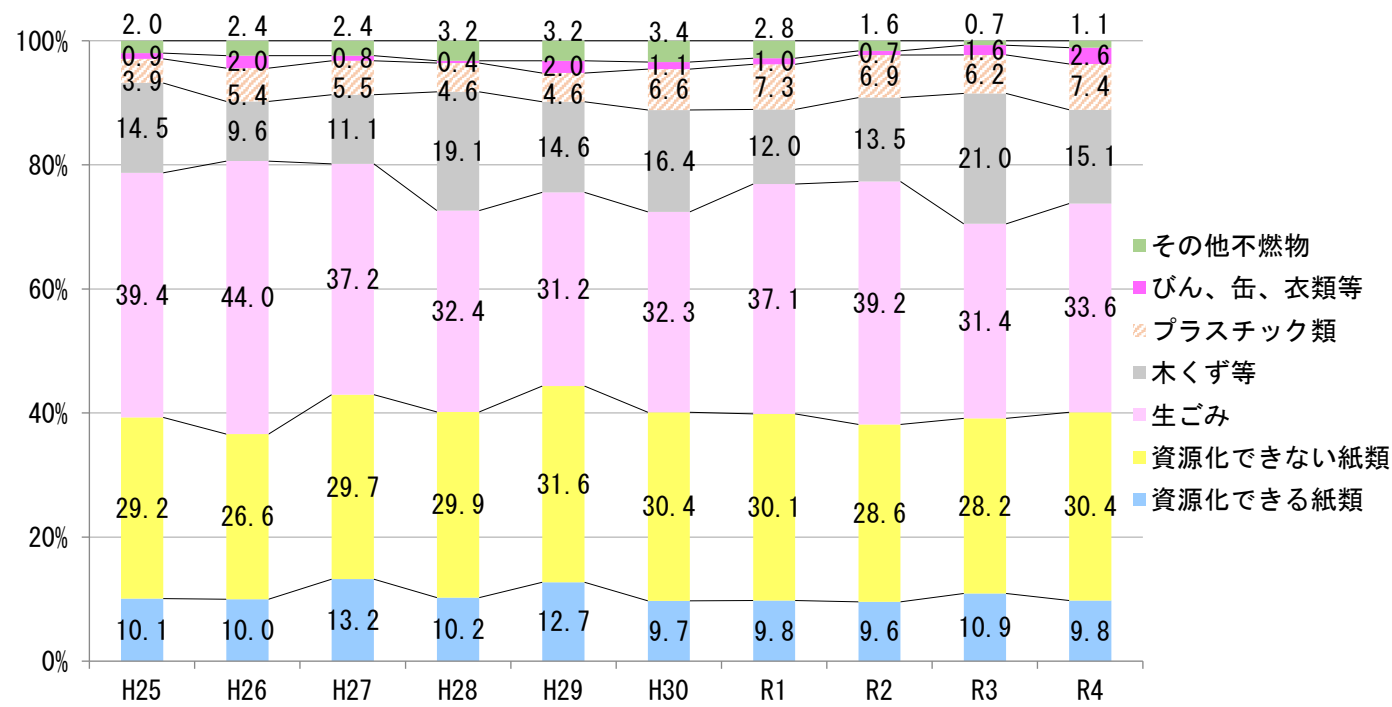
- 家庭ごみ：家庭系大型ごみの排出量が増加したことが要因と考えられる。
- 事業ごみ：令和2年度から廃プラスチック類の市最終処分場での受入れを中止したことが要因と考えられる。

(参考) 組成分析調査結果

○ 家庭系可燃ごみの組成分析結果の推移

年度によって増減はあるものの、各年度ともに紙類が全体の約4割を占めており、紙類のうちの約2～3割は資源化できる紙類であることについても大きな変化は見られなかった。

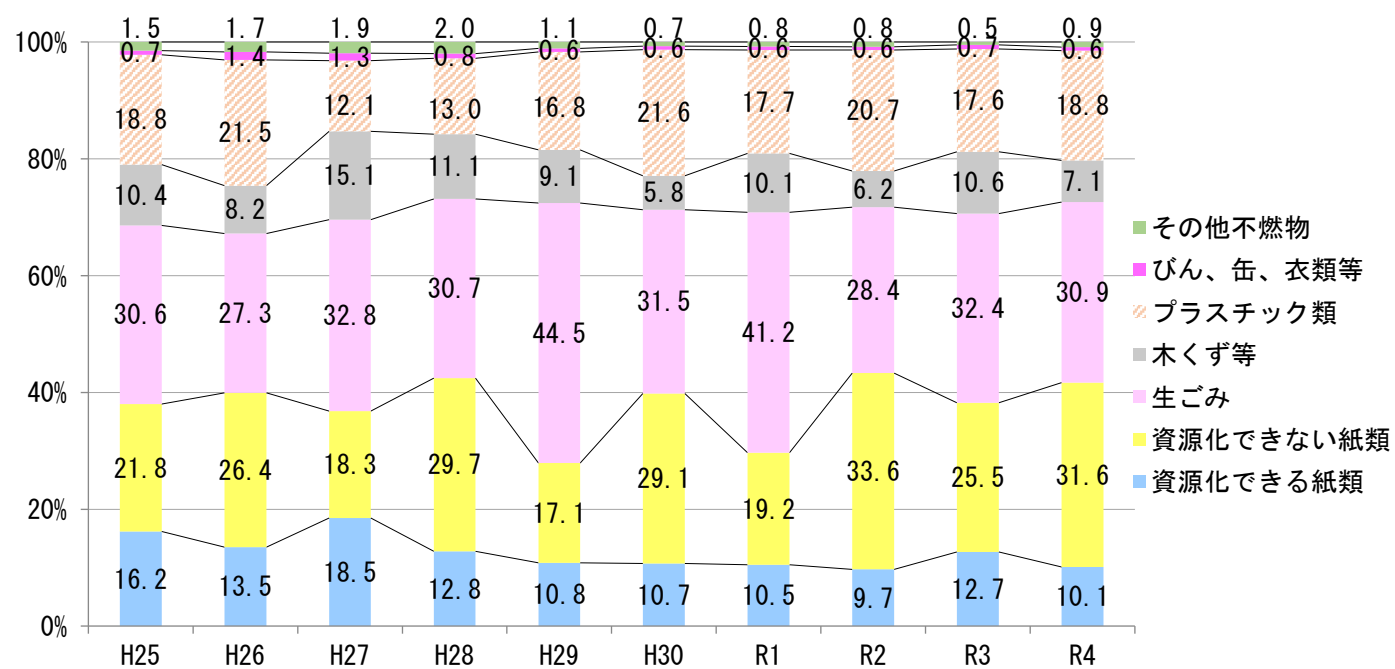
また、生ごみが概ね3割～4割で推移しており、期間の中で増減の傾向はうかがえない。



○ 事業系可燃ごみの組成分析結果の推移

家庭系可燃ごみと同様、各年度ともに紙類が全体の約3～4割を占めているが、そのうち紙類に資源化できる紙類が約2～5割含まれており、家庭系可燃ごみよりも資源化できる紙類の割合が高い。

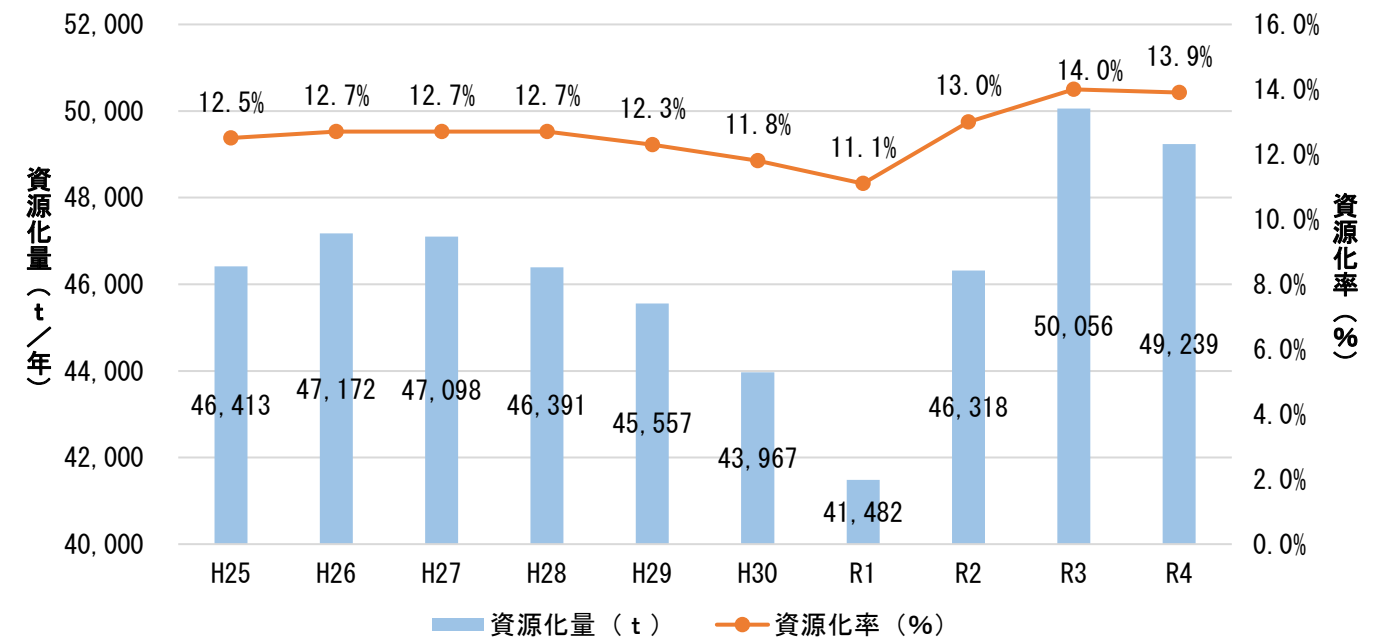
また、生ごみが概ね3～4割を占めており、期間の中で増減の傾向はうかがえない。



(参考) 資源化量の推移

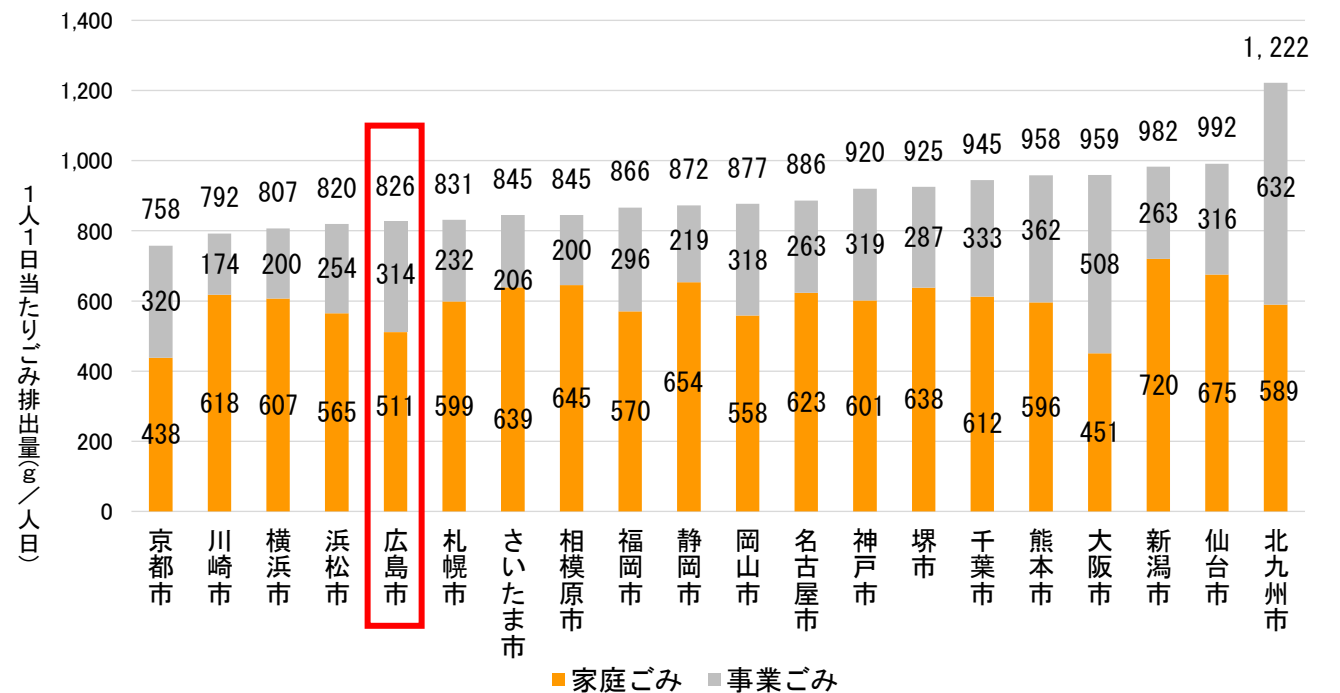
本市の資源化量*は、平成26年度以降令和元年度まで減少傾向であったが、令和2年度及び令和3年度は増加し、令和4年度は減少した。令和4年度には減少したものの、基準年度の平成25年以降で見ると、資源化量及び資源化率は上昇傾向にあり、これは、本市の各施策の成果により市民・事業者がごみの分別やリサイクルへより一層取り組むようになったことや、大型ごみや資源ごみの排出量が増えたこと、資源ごみの持ち去り行為を禁止したことにより、資源ごみの排出量（回収量）が増加したことが要因と考えられる。

(※ 民間による資源化量は含まない。)



(参考) 1人1日当たりごみ排出量の政令指定都市比較

本市の1人1日当たりのごみ排出量は、平成17年度から平成28年度まで政令指定都市の中で最少となり、平成29年度以降も低い水準を維持している。



(資料：環境省 令和3年度一般廃棄物処理実態調査結果)